

台湾での石川フェアの開催について

農林水産物等の台湾への販路開拓及び石川の食文化の魅力発信を行うため、1月9日から19日までの11日間、台北随一の高級百貨店「微風百貨店」3店舗で、石川県の農林水産物や食品・伝統的工芸品等の販売・PRを行う「石川フェア」を開催しました。同百貨店では、これまでも季節ごとに能登志賀ころ柿やルビーロマンのフェアを開催してきましたが、総合的な物産展としては昨年に続き今年で2回目の開催となります。

今回のフェアでは、食品14社51商品、工芸品9社68商品を販売するとともに、石川県を身近に感じてもらうための体験型の取り組みに重点を置き、和菓子の実演販売や製作体験、石川の日本酒を石川の伝統的工芸品（酒器）で試飲プロモーションを実施しました。

和菓子の製作体験では、参加者が椿や桜といった花柄模様に加え、難易度の高い花火模様にも挑戦しました。色や大きさが異なる餡をへらや茶こしなどを使って成形する工程を体験し、完成後は和菓子職人と一緒に写真撮影を楽しむ姿が見られました。参加者からは、「石川に行ってみたい」「色々な和菓子を食べに和菓子店にも足を運びたい」といった感想が寄せられるなど、石川県への興味を深める効果が見られました。

食品の試食コーナーでは、商品の調理例を紹介することで、活用イメージを具体的に伝える工夫をしました。例えば、台湾で人気の火鍋に合わせて、調理用みそを用いた鍋料理を提供したところ好評で、商品をレシピと一緒に持ち帰る人が多く見られました。また、甘酒にはちみつを加えたドリンク、柚子味噌にクリームチーズを漬け込んだアレンジ料理なども人気で、関連商品のまとめ買いも見受けられました。台湾では家庭での自炊率が日本ほど高くないと言われますが、誰でも手軽にできる簡単な調理例を提案することで、自家消費向け商品の関心が高まることが示されました。

さらに、石川の日本酒を輪島塗などの酒器で試飲できる企画については、来場者からは、「漆器で飲むと口当たりが柔らかく、酒がまろやかに感じられた」「酒器のデザインが美しく、酒と一緒に飾りたい」といった意見が寄せられ、実際に酒器をセットで購入される方も見受けられ、食品と工芸品を組み合わせるPRする方法は、様々な角度から消費者へアプローチできるため効果的な手法だと感じました。今後とも、現地のニーズを踏まえたPR方法を模索し、県産品の販路拡大に努めていきます。

■ 中国工芸品バイヤーの産地招聘

昨年12月、中国で日本の伝統的工芸品を販売する「重慶青山 SQUARE」と、江蘇省蘇州市で工芸品やアート作品の販売・プロデュースを行う「疎石 Soseki」のバイヤーを石川県に招聘し、産地訪問と商談を行いました。

「重慶青山 SQUARE」は、昨年6月に石川県の伝統的工芸品フェアを開催した店舗で、現在は江蘇省や浙江省などにも販売拠点を構築し、伝統的工芸品の販路拡大に取り組んで

います。また、「疎石 Soseki」は、蘇州市内の本色美術館内にギャラリーショップを構えており、工芸品の販売やアート展を手掛けています。

今回の招聘では、今後、招聘バイヤーの販売拠点で石川県のイベント開催を視野に入れ、商品セレクトやコンセプトのイメージ作りを主眼とし、中国で人気の金箔や九谷焼の他、輪島塗や水引、桐工芸、加賀獅子頭など、県内の多彩な産地を訪問し、それぞれの特色や製造工程等を確認するとともに、写真・動画の撮影も行いました。今後のイベント実施に向けて、一つでも多くの販売拡大につながるよう、取り組んでいきたいと思っています。



台湾・微風百貨店での石川フェア



伝統的工芸品の酒器を使った日本酒の
試飲



中国・工芸品バイヤーの県内招聘